

発行日： 令和2年 6月16日

発行者： 今村証券株式会社

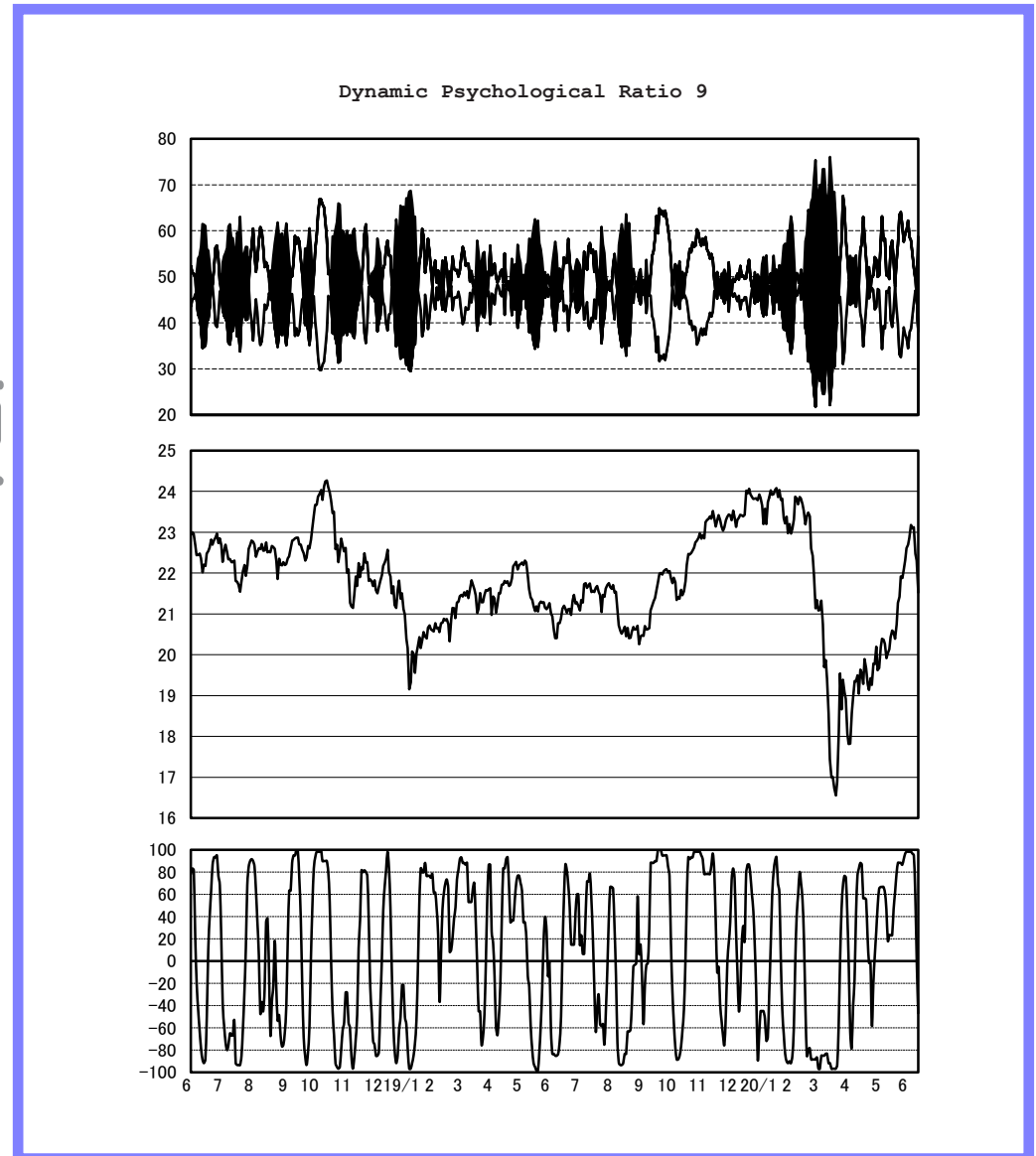
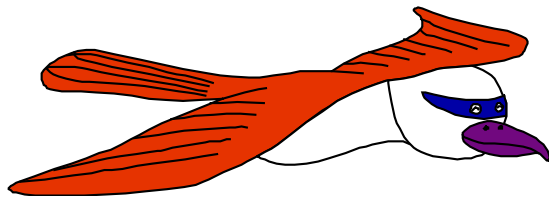
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者： 営業推進部 調査課

情報シャトル特急便

第667号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場

中図は日経平均株価

下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場

80%ラインを下につき抜け→売り場

大所高所

6月に入り23,000円台を回復した日経平均株価は、米国での感染第2波の兆しを理由に一気に調整し、先週12日には朝方700円近く値を下げた。とはいえ、絶好の押し目と見た個人投資家の買いが入った。現在の株式相場の状況の見方は様々で、理由なき株高論もあれば、コロナでの株価下落をバブル崩壊のきっかけと見る人もいるし、コロナショックは単なる大規模なテロが一時的に起こったようなものと軽く捉える向きもあり千差万別のようなのだ。

2月から日経平均が連日急落し16,000円台まで下がった時は10,000円を割り込むとの相場展開を予想した記事もあったが、今やコロナバブルという言葉が紙面に出てくるとは、誰も想像できなかったに違いない。

各国の金融緩和に伴う超低金利が、異常なほどの過剰流動性を生み出した。FRBは2022年まで現状のゼロ金利政策を続けるという。日銀もマイナス金利政策に加え、ETFの買い入れを通じて株価を押し上げており、足下の景況感を示す指数の悪化を打ち消して株価は下振れはあっても実態経済に則さずに堅調な値動が続いてきた。

とはいえ、米国フロリダ、中国の北京での感染拡大が報じられると市場は敏感に動き、感染第2波を警戒した売りが出て、週明け15日に日経平均は800円近く下落。未だ市場は病み上がり状態であることを改めて印象付けることとなった。

(nil admirari)

ただ一筋

日経平均株価は、半値戻しから全値戻しとなる2万3000円台を回復したものの、新型コロナウイルスの感染が収束したとみられていた中国で再び新規感染者が増加したことを受け、「第2波」への警戒感から、海外ヘッジファンドによる売り仕掛けが見られ荒れ模様の展開になっている。

また、直近の急ピッチの上昇が先週の先物・オプション6月物の特別清算指数（SQ）算出を控えた海外投資家の先物買戻しが主導したものであったことや短期的な過熱感もあること、加えて19日には米国市場でも株価指数先物、株価指数オプション、個別株オプションの取引決済が重なる「トリプルウィッチング」を控えていることから値動きが大きくなる可能性があるだろう。

ただ、世界各国が未曾有の金融・財政政策を継続しており、米国ナスダック指数が1万ドルを突破する史上最高値を付けるなど債券から株式への流れは強まる一方である。「押し目は絶好の買い場提供」と捉えたい。

さて、物色面では今回のパンデミックによって社会・経済構造の変化を積極的に受け入れ絶好のチャンスと捉えている企業とそうでない企業では明暗が大きく銘柄選定がより重要である。個別株では、テラスカイ（3915）、ギフトィ（4449）、マクアケ（4479）を注目している。
（三感王）

当たり屋見参

2番底が騒がれていた中で起きたコロナバブル。結局下げ局面が無いまま、日経平均は23,000円台を突破した。实体经济の回復無き上昇相場であり、2番底を予想していた投資家は一気に買い戻しを迫られた。足元はやっと迎えた下げ局面。米ダウ平均は過去4番目の下落幅を記録し、日経平均も3営業日で1600円近く下げた。しかし、大量の資金が滞留している中での下げ局面。こんな絶好の買い場はあるだろうか？、今買わない人はいつ買うのか？というぐらい強気で見るべきポイントだと思っている。そして、米ダウよりも、一際強い動きを見せたナスダック。今乗るべき業種は、やはりハイテク銘柄だろう。

注目しているのは、5Gの基地局など通信整備需要が膨らんでおり、通信インフラシェアリングを手掛けるJTOWER(4485)。また、システム化、電子化が進む中でやはり企業リスクとしてサイバー攻撃に備えたいところである。直近では、サイバー攻撃によりホンダの世界の9工場が生産が止まった。デジタルアーツ(2326)は企業や官公庁向けのセキュリティソフト開発の大手で、有害情報遮断システムに強く強固なセキュリティーを手掛けている。

(香る山)

中堅の視座

世界で最も過酷と言われるルマン 24 時間レースが、今年は 13 日～ 14 日にかけて rFactor2 というシミュレーションソフトを使い、オンラインでの「バーチャルレース」で行われた。現実の F1 レーサーだけでなく、e スポーツレーサーも多数参加した今回のレースは YouTube だけでなく世界 57 カ国の大手テレビ局で放送され、アクセス数は 1300 万回を超えたとのことだった。

あくまで主観的な感想だが、「スポーツらしい e スポーツだな」と感じた。なぜ自分がそう思うのか考えてみると、おそらく実際にシートに座りハンドルを握り、体を動かして操作するため、現実の車の操作に通じる部分が多いからだと思う。

コロナウイルスの影響で東京オリンピックは延期され、世界中のプロスポーツは開催が延期されたりシーズンが終了したりしている。その中で、今後もし「実際に体を動かして競うスポーツらしい e スポーツ」がたくさん出てきたら、スポーツの世界も大きく変わるのではと感じた。そして、先日新たな情報が出されたソニー (6758) のプレイステーション 5 は、巣ごもり需要という単純なものではなく、コロナ後の世界を大きく変える新たな発明になることを期待したい。

(インティライミ)

きらきら星

3月を安値に急反騰した日経平均株価は年初来高値を視野に入れるほどの回復ぶりだった。しかし、景気の先行き不透明感や新型コロナウイルスの感染拡大の第2波懸念などが意識され、高値警戒感もあったことから先週半ばから週明けにかけスピード調整を余儀なくされたようだ。目先は更なる調整も警戒すべきだが、世界的な金融緩和や財政政策によってばら撒かれた潤沢な資金でゼロ金利、マイナス金利が継続される状況下で資金の行き場が無くなっている。当然株式市場に戻らざるを得ないだろう。今回の上昇トレンドは不変で、調整一巡後は実需の買いと積み上がっている売り方の踏み上げにより騰勢を強めるリスクオンの展開が予想される。

そうした中、日本でも商用化が始まった通信新規格の「5G」、コロナ・ショックを跳ね返す勢いを見せている「半導体」、テレワークを滞りなく機能させるための「クラウドコンピューティング」といったテーマ株や好実態株への物色意欲は旺盛であり、これらに関連する銘柄の押し目は徹底して拾っていききたいものだ。個別ではNEC(6701)、サーバーワークス(4434)に注目したい。

(猫のシャーミー)

アナログの俯瞰

実体とはかけ離れた相場、これをバブル相場と呼ぶ。今の相場はそう見える。コロナショック前の水準に一旦ほぼ戻った格好であり、結果的にコロナショックの大幅下落はなかったことになった。不安になって売却した投資家が多大な損失を被り、ここぞとばかりに買付した投資家が多大な利益を得ることになった。恐怖であり、醍醐味でもある。理不尽は相場の世界でも当然の如くまかり通る。果たして「第2波」は株式相場にどのような影響を与えるのだろうか。

人は学ぶ。2月からの大崩落相場、そしてその後のバブル的戻り相場。皆この過去に経験のないほどの乱高下相場を目の当たりにして学んだ。「相場は相場に聞け」という格言もあるが、まずはこの学習、経験を「第2波」で生かすべし。

さらにこの新型コロナウイルスは、相場だけではなく、人々の生活様式そのものも変えることとなった。中でも仕事に絡むもの、テレワーク、リモートワーク、在宅勤務。似たような言葉が飛び交う。今回を機にこれらに変化し、そして定着。相場もその関連に勝機があるか。

成果報酬型広告大手のバリューコマース(2491)、空中結像(タッチレス)のアスカネット(2438)、医師向け医薬品情報サイトのエムスリー(2413)再度。

(孤独に克つのは人類かウイルスか？第二章幕開け？クレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

＜高松機械工業＞

中小型のNC旋盤が主体の工作機械メーカーで、6割程度が自動車関連向け。自動車部品加工やIT関連製造装置、農業機械も手がける。

2020年3月期連結業績は減収減益。工作機械の需要が減少する中で、受注高が前の期に比べて大幅に減少したものの、2018年度期末の受注残高が高水準にあったことが支えとなったほか、半導体の搬送装置を手掛けるIT関連製造装置事業が好調だったことで、売上高は前の期に比べて3.1%減の219億47百万円と小幅な減収にとどまった。営業利益については、減収による影響から前の期に比べて2割の減益だ。

会社が発表した今期業績予想は、夏ごろまで需要低迷が続くとの想定のもと、2割弱の減収、6割の営業減益見通した。ただ、5月の工作機械受注高が20カ月連続の前年割れとなるなど、足元の需要は新型コロナウイルスの影響からなお弱含んでいる印象で、不透明感が強い。業績の下方修正を視野に入れる必要があるようだ。

株価は3月に約6年ぶりに500円を割り込んだ後は持ち直しているものの、業績下方修正リスクがあることから受注回復を見極めたい。

” 僧 中 線 罫 ”

月足



日足



出所：ブルームバーグ

週明けの日経平均株価は774円安の21,530円と3日続落の波乱のスタートとなった。米国でのコロナ感染第二波で経済が再び停滞する懸念から米株の夜間市場が急落。後場から下げ足が加速し、先週末の6月SQ値22,071.46円をあっさり割込み調整相場入りへ。米株は6月10日の米FOMC後に急落。3月下旬から始まった猛烈な上昇相場も一旦終了。調整後再び上昇相場が開始される可能性が高い。

過剰流動性は維持され、コロナ後の社会変化を意識した銘柄に資金が向かうと予想する。

3064 MonotaRO

工場、工事間接資材のネット通販の大手。3月17日安値2,243円から6月11日4,320円（上場来高値）と株価約2倍を達成。コロナ禍で、ネット企業の優位性を発揮している。ここ最近、海外投資家も触手を伸ばしているとか。商品情報管理システムが上期稼働で、取扱商品が拡充され、新規顧客開拓増大が期待される。中期5,000円目標で。

(ICHI)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が2,612円未満の場合は2,612円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資1単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。